



元気っ子

No 323 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月14日(金)の「保育・子育て講演会／給食試食会」へのご参加ありがとうございました。講演後の質疑応答では多くの保護者様からご質問を頂き、ありがたいことに時間を大幅に超える盛り上がりを見せて頂きました。講師の先生からは「子育てに熱心な保護者さんがたくさんおられて素晴らしいですね」との感想も頂きました。次年度以降も継続して参りますので、今回参加できなかった方のご参加も是非お待ちしております。

講演会でも少し紹介されていましたが、名古屋市立山吹小学校(公立)では、オランダのイエナプラン教育にある「ブロックアワー」をモデルとした「山吹セレクトタイム」という取り組みがあります。内容は「いつ、何を、どのように学ぶか」を自分の関心や能力、進度に合わせて、子ども自ら計画を立てて進めるものです。名古屋市教育委員会の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた取り組みの一環で、現在、名古屋市では公教育の構造転換が進んでいます。以前、中日新聞でも紹介されていたので、検索をかければすぐに出てきます。一度ご覧頂けたらと思います。

また愛媛県でも新たな教育の取り組み例があります。元サッカー日本代表監督の岡田武史氏が、今春「FC今治高校・里山校」を開校させました。最大の特徴は午前中の必須科目を学んだあと、午後からは校外へ出て「町をキャンパスにした教育」を展開するカリキュラムにあります。岡田氏はこれからの動乱の時代を生き抜くためには「簡単に諦めないタフさ」「想定外に対応する適応力」「自ら考え、人を巻き込む主体性」そして「多様な人を包摂するコミュニティー」が求められると言います。また、これからは「俺についてこい」というリーダーシップではなく、「人を巻き込んでいくキャプテンシップ」が必要であり、「お上が何とかしてくれる」や「新しいリーダーの登場を求め、その人に全てを委ねようとする他人任せの姿勢」といった当事者意識の欠落が問題だと言います。

他にも徳島県にあります「神山まるごと高専」も地域を巻き込んだ、これからの社会を生き抜くために必要な資質を育む教育を展開しています。

全国にこういった教育が次々と展開され、特に教育先進県はいち早く取り組みがスタートしています。私はこれらの取り組みの成功のカギは「乳幼児教育」にあると思っています。

「自分たちで考え、対話を通して何とか乗り越える経験」「やらされるのではなく、自分の意志でやりたいことを実現させる経験」「見通しをもつ力」「人の気持ちに寄り添い、共感する力」「異年齢の多様な集団での様々な経験」これらの経験や力が就学前の時期にあるのとならないのでは、これからの学校生活を含め、社会で生き抜くことは困難になるかもしれません。

就学前の保育において、これらの経験や力は、教えて身に付くものではありません。それこそ子どもたちが主体的、意欲的に環境に関わることを通して、初めて身に付くものです。一人一人の子どもの未来のために、これからも丁寧に環境を見直しながら保育を実践して参ります。